

杉並区は 「再エネ利用設備」の 設置を促進しています！

脱炭素社会の実現に向けて、杉並区では太陽光発電や太陽熱温水器などの再エネ利用設備の設置を促進しています。

このため、「建築物再生可能エネルギー利用促進区域制度」を導入し、杉並区全域を促進区域に定めるとともに、再エネ利用設備の設置の際に活用可能な助成制度を用意しています。

これらの制度を活用して再エネ利用設備の設置を、ぜひご検討ください。

▶建築物再生可能エネルギー利用促進 区域制度の導入で何が変わったの？

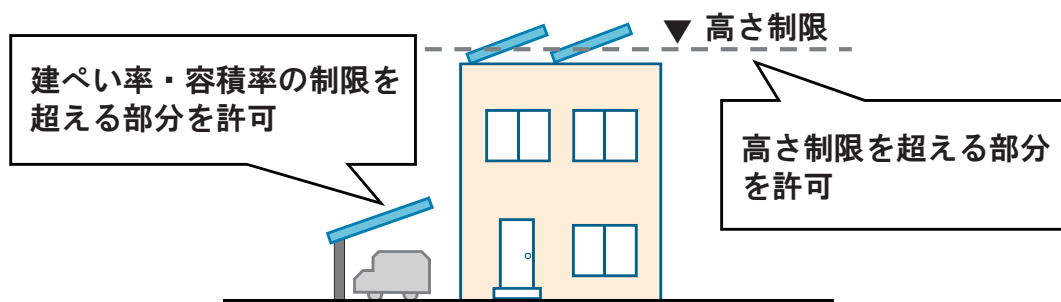
①建築士から再エネ利用設備の説明を受けられるようになりました。



建築士が説明します

建築士が杉並区内の建築物を設計する場合に、再エネ利用設備について建築主に説明する義務が生じます。建築物へ設置可能な再エネ利用設備の種類や規模のほか、再エネ利用設備設置の検討に必要な、再エネ利用設備導入の意義やメリット、設置により生じる費用等について、建築士から説明を受けることができます。

②建築物の特例許可を受けられるようになりました。



<https://www.city.suginami.tokyo.jp/documents/1879/saienkyoka.pdf>
許可基準の詳細は、こちらからご確認ください。

再エネ利用設備の設置に伴って、建ぺい率や高さ等の制限を超えてしまう場合に、特例許可を行います。

一定の基準を満たし特例許可を受けることで、高さ制限等を超える場合であっても、ソーラーカーポートや太陽光発電設備等の再エネ利用設備の設置が可能となります。



<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s096/18541.html>
制度の詳細についてはこちら！

家を建てるときに、再エネ利用設備について建築士から説明してもらえるようになったり、つけやすくなる仕組みができたんだね



再エネ利用設備導入にうれしい助成制度

導入する メリット

地球と未来に貢献



CO2を減らす暮らし

家計にもやさしい



光熱費をグッと削減

災害時にも安心



停電時にも使える

主な助成制度

助成対象機器	東京都 (災害にも強く健康にも資する断熱・太陽光住宅普及拡大事業)  https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/home/dannetsu-solar	杉並区  https://www.city.suginami.tokyo.jp/s103/819.html
太陽光発電システム	新築住宅3.6kW以下 12万円/kW(上限36万円) 3.6kW超 10万円/kW ※より高性能なパネルは上乘せ補助あり	太陽電池モジュール全体の 公称最大出力 4万円/kW (限度額12万円)
定置用リチウムイオン蓄電池	12万円/kWh ※太陽光パネル設置または再エネ電力契約が条件 ※電力需給のバランス実証実験参加への上乗せ補助あり	定額5万円
強制循環式ソーラーシステム	補助率1/2 上限55万円/戸	太陽熱集熱器全体の面積 2万円/㎡(限度額6万円)
自然循環式太陽熱温水器	補助率1/2 上限55万円/戸	太陽熱集熱器全体の面積 1万円/㎡(限度額2万円)

上記の助成制度を活用する場合の試算例

◆太陽光発電システム4kWを設置・運転するための費用

	費用
システム設置費用	約117万円－ 52万円(助成額) (設置費用29.3万円/kW×4kW) → (実質負担額65万円) ※参考価格であり、設置環境、工事内容等により前後します。
運転維持費用	パワーコンディショナーの交換費用 約27万円/台 ※この他、点検等の費用が別途かかります。

補助金を使うとはじめの費用
がグッと安くなるよ



出典)東京都環境局【新築・中小規模制度】太陽光パネル設置に関するQ&A

◆太陽熱利用システム1台当たりの設置費用

		費用
ソーラーシステム	集熱面積:4㎡ タンク:200L	55万円－ 33.5万円(助成額) → (実質負担額 21.5万円) ※参考価格であり、設置環境、工事内容等により前後します。
太陽熱温水器	集熱面積:3㎡ タンク:200L	30万円－ 17万円(助成額) → (実質負担額 13万円) ※参考価格であり、設置環境、工事内容等により前後します。

出典)一般社団法人ソーラーシステム振興協会ホームページ(<https://ssda.or.jp/merit/>)

▶ 設置にあたって留意するポイント

長く快適に再エネ利用設備を利用するためには、以下の事項について留意する必要があります。再エネ利用設備を設置される際に、ご検討いただきますようお願いいたします。

長く安心して使うために

太陽光パネルの汚れは雨で流れるため特別な掃除は不要ですが、安心して使い続けるために、定期的に発電状況をチェックしましょう。

太陽熱利用設備では、ボイラー周囲に可燃物がないかチェックしましょう。

定期点検の目安

- ・ 4年に1回程度の点検が推奨されています。
- ・ 異常があれば施工業者・メーカーに相談してください。



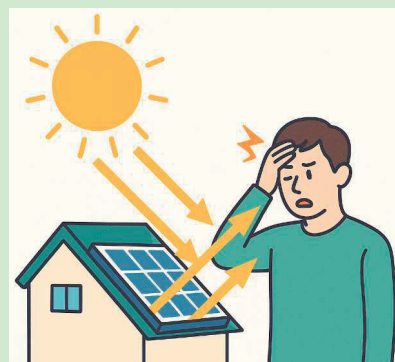
光の反射（光害）にご注意を

太陽光パネルは、設置する角度や向きによって近くの建物に光が反射してしまうことがあります。

設置前に、建築士や施工業者に「反射の方向」や「角度の調整」を確認しておきましょう。

事前にできる工夫

- ・ 光が周囲の建物に向かないよう角度を調整する。
- ・ シミュレーションで反射の影響を確認する。
- ・ 光を抑えるタイプのパネルを選ぶ。 など



景観にもやさしい工夫を

杉並区では、みどり豊かな美しい住宅都市としてあり続けるための景観づくりを推進しています。

再エネ利用設備を設置するときは、位置やデザインを工夫するなど、景観への配慮をお願いします。

景観に配慮する工夫

- ・ 道路側や隣家から目立たない場所に設置する。
- ・ 屋根と一体となったデザインとする。
- ・ 格子(ルーバー)などで目隠しする。 など



再エネ利用設備にも寿命があります

- ・ 太陽光パネルの寿命: およそ25～30年
 - ・ パワーコンディショナーなどの機器: 15年程度
 - ・ 太陽熱利用設備の寿命: およそ15～20年
- ※使用状況等により異なります。

処分・リサイクルも忘れずに

古くなった設備は、リサイクルや安全な処分が必要です。撤去の際は、施工業者やメーカーに相談してください。設置した後のことも含めて、建築士や施工業者としっかり相談しながら進めましょう。



よくある質問

Q1:太陽光パネルは夜間・悪天候時には発電できないと思いますが、年間の発電量はどの程度ですか？

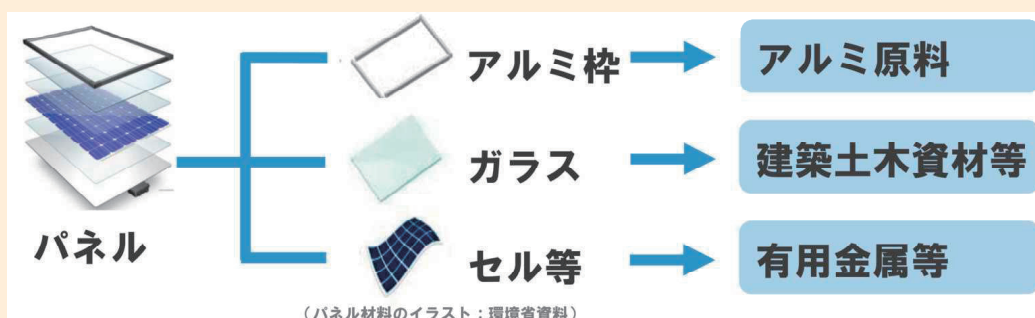
A1:住宅の屋根に4kWの太陽光パネルを設置した場合、年間4000kWh程度の発電量が期待でき、これは、一般家庭の平均年間電力消費量の約8割程度に相当します。

Q2:太陽光パネルはリサイクルできるのでしょうか？

A2:リサイクルが可能です。

近年、将来の本格廃棄を見込み、首都圏においても、様々なリサイクル施設が稼働し、事業用太陽光発電設備の処理が既に行われています。

リサイクル施設にて、アルミ枠、ガラス、セル等の材料毎に分離され、新たな製品の原料として再利用されます。



Q3:太陽光パネルの原料には鉛など有害なものが使われていると聞きます。製品寿命等に伴う廃棄によりこれらの有害物質が溶出してしまい、環境破壊につながることはありませんか？

A3:太陽光パネルによっては鉛などの有害物質が使用されているものもあり、廃棄に当たっては、地下水汚染対策がされている管理型最終処分場に埋め立てるなど、専門事業者を通じた適切な処理が行われます。

【現状の処理フロー例】

解体撤去

収集運搬

中間処理

管理型
最終処分場

Q4:火事の際は消火できないと聞いたのですが、本当ですか？

A4:東京消防庁は、太陽光パネルが設置されている住宅等の火災において、活動隊員の安全確保策を講じたうえで、放水による消火活動を行っています。

Q5:既存住宅に設置する場合、どんなことに注意が必要ですか？

A5:住宅に太陽光発電システムを設置する場合、システムを設置する建物側に備えが必要です。屋根に設置する太陽光パネルや架台の重量は、4kWの場合で約400～550kg相当になります。それらの機器を屋根の一部に載せて固定することになるため、地震や強風などによる住宅の構造安全性への影響や、防水対策などを十分に考慮する必要があります。

詳しくは、建築士や専門の施工業者にご相談ください。

Q1～Q4:出典)東京都環境局【新築・中小規模制度】太陽光パネル設置に関するQ&A

Q5:出典)一般社団法人 環境共生住宅推進協議会「戸建住宅の太陽光発電システム設置に関するQ&A」



〈建築物再生可能エネルギー利用促進区域制度に関すること〉
建築課 建築企画係
電話番号: 03-3312-2111(内線3355)

〈助成制度に関すること〉
環境課 温暖化対策係
電話番号:03-5307-0672(直通)